

会 議 録

会議の名称	令和7年度茨木市青少年問題協議会
開催日時	令和8年1月29日（木） 午後5時00分 開会 午後5時40分 閉会
開催場所	茨木市立上中条青少年センター 3階会議室
会 長	福岡 洋一（茨木市長）
出席者	森岡恵美子 上田 光夫 松本 泰典 三川 俊樹（部会長） 福井 斉 村林 隆志 長谷川祥恵 田中 晃子 大神 硬司 正尾 直也 野村 円 濱園 明洋 浦野祐美子 【計13人】
欠席者	山田 眞弘 梶西 学 平家 雅史 行田 和弘 石田 勉 【計5人】
事務局職員	辻田教育総務部長 吉田教育総務部理事 吉崎社会教育振興課長 村上社会教育振興課参事 稲角社会教育振興課指導育成係長 石井社会教育振興課指導主事 【計6人】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 専門部会からの付託事項報告 <ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成のための重点目標と取組状況 ・青少年健全育成重点目標リーフレットの更新 ・ほっとけん！アワードの決定 ・ほっとけん！アワードの採点項目の改正 (2) 青少年育成の現状報告と課題の共有

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【 開会 】【 委員紹介 】
福岡会長	【 あいさつ 】
事務局	委員出席状況について報告。議事進行を福岡会長に交代。
福岡会長	案件（１）「専門部会からの付託事項報告」について、部会長より説明を求める。
三川部会長	<p>今年度は専門部会を２回開催し、青少年育成の重点目標と取組状況について冊子にまとめた。資料１に基づき報告する。</p> <p>１ページ、青少年問題協議会では、関係団体や組織の委員が集まり、青少年の健全育成に関する総合的な施策の審議を行っている。</p> <p>本協議会ではこれまでに定めた重点目標である「こどものSOSほっとくん!?大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、市内の青少年を対象とした行事で当目標を意識して取り組んでいただくために、行事の計画時と実施後に自己点検アンケートを記入していただいている。</p> <p>２年前の令和５年度には、重点目標を継続するか、または更新するかについて検討し、現行の重点目標を継続したほうがよいとの結果にまとまった。引き続き現行の重点目標に沿った取組を地域にお願いし、青少年の健全育成を推進することを呼びかけていきたいと考えている。</p> <p>２ページ以降に、こどもの発するSOSのサインの種類、大人の接し方や心がけ、青少年のインターネット利用時間の増加、SNSに起因する事案の被害児童数の推移等を示し、大人の見守りの必要性を促している。</p> <p>７ページから９ページには、重点目標の取組状況の指標となる自己点検アンケートの趣旨や目的、結果を示している。</p> <p>地域では、青少年の自主性を引き出すような工夫をして行事を企画・運営し、コロナ禍で落ち込んだ青少年と学校・家庭・地域等とのつながりの回復に期待していることが伺える。</p> <p>続いて、青少年健全育成団体の活動状況について、事務局より説明する。</p>
事務局	<p>１０ページでは、コロナ禍の時期も含め、令和元年度以降の青少年健全育成団体の行事計画数を比較している。</p> <p>令和７年度の行事計画数は、通年でコロナ禍にあった令和２年度から４年度に比べて増加しているが、コロナ前の令和元年度の水準までは戻っていない。</p>

	<p>11 ページでは、令和7年度に計画している行事を種目別にまとめている。屋外スポーツ、フェスティバル、レクリエーションなどの屋外行事や、交流会などの屋内行事も含め、幅広く行事を計画されていることが分かる。</p>
三川部会長	<p>12 ページからは、「ほっとけん！アワード」を審査基準とともに紹介している。18 ページ以降は、青少年健全育成団体の前年度行事実施結果と今年度行事計画、青少年問題協議会の役割等を時点修正している。当冊子は3月に発行予定である。</p> <p>続いて、重点目標啓発リーフレットについて、事務局より説明する。</p>
事務局	<p>手元の青少年健全育成重点目標リーフレットは、青少年健全育成の啓発のため、学校を通じて家庭に配布するほか、青少年育成の関係者に配布している。年度の更新にあたり、背景やタイトルの色合いについて変更するほか、記載されている年度や写真の時点修正を加える。</p>
三川部会長	<p>専門部会では、これまでより委員及び関係機関から情報提供を受けているが、当ネットワークを生かし、青少年健全育成活動を提案・発信していく。</p>
福岡会長	<p>ただいまの説明について、質問や意見等があれば、発言を求める。</p> <p>< 質疑等なし ></p>
福岡会長	<p>それでは、「重点目標と取組状況（案）」、「リーフレットの更新」について承認することよろしいか。</p> <p>< 異議なし ></p> <p>次に、「ほっとけん！アワードの決定」について、部会長から専門部会で決定した内容の報告を求める。</p>
三川部会長	<p>当アワードは、工夫を凝らして実施している青少年健全育成行事を表彰することで、青少年団体の活動意欲の向上を図るものである。選出元となる各協議会では、アワードの選考過程で行事の工夫点や地域に対する働きかけ等の事例を共有いただき、また、アワードの結果の公表により、地域に好事例をフィードバックすることも目的にしている。</p> <p>今年度は、11月20日の第2回専門部会にて、各協議会より選出された4つの行事につき、団体の代表者にプレゼンテーションをいただき、出席できない団体の行事は事務局による説明と書類による審査を行った。</p> <p>また、今年度から、各協議会で推薦に至らなかった行事のうち、各協議会の審査順位の上位2つまでをエントリー賞として、表彰の対象としている。</p>

<p>事務局</p>	<p>それでは事務局より行事の紹介をする。</p> <p>今年度の「ほっとけん！アワード」は、各協議会から推薦を受けた4行事を専門部会で審査した。資料2をもとに報告する。</p> <p>三島中学校区青少年健全育成運動協議会「夢・笑顔・愛フェス 2024」では、青少年健全育成運動協議会のメンバーが中学校の総合学習の防災教育に参加し、災害時に中学生ができることなどを一緒に検討した。中学校各学年に企画を検討してもらい、案内・非常食配布・防災グッズ展示、防災体験コーナーなど、幅広く中学生に担当してもらった。生徒や保護者だけでなく小学生や幼児、地域住民が集い、防災や減災を学び、地域の防災意識向上や関係づくりをすすめた。</p> <p>天王小学校区こども会育成連絡協議会「天子連カーニバル」では、こどもの意見により低学年や高学年まで楽しめる活動を取り入れ、防災アイテムで普段はインテリアになるペットボトルランタンづくりを行った。大人はこどもを見守りつつ、できるだけこどもたちで解決できるようアドバイスし、こどもは行事で体験したことを家庭や友達に伝えることで防災への興味が深まった。</p> <p>西陵中学校区青少年指導員会「放課後カフェ（レインボーカフェ）」では、生徒にとって部活外での交流の場になっており、生徒からの認知度が上がり参加者も増えている。教室に入りづらい生徒が通うステップルームへの出張カフェも行っている。先生からは放課後に生徒の別の顔を見ることができるとい話を得ており、他校区でも同様のカフェが広まっている。</p> <p>沢池小学校区青少年健全育成運動協議会「親子のつどい」では、自主防災会、福祉委員会と協力して防災訓練を行い、多世代交流をしながら防災意識向上を図った。こどもの意見やニーズは、開催前や行事の中で聞き、次回以降に活かせるよう把握した。防災訓練ではスタンプラリー形式を取り入れ、参加意欲を高める工夫を行った。</p> <p>以上の行事を専門部会で審査し、資料2に採点結果をまとめた。その結果、今年度の「ほっとけん！アワード」には、三島中学校区青少年健全育成運動協議会「夢・笑顔・愛フェス 2024」を選出した。</p> <p>また、今年度から設けているエントリー賞について、2つの行事が対象となった。こちらは資料1の15ページに記載している。</p> <p>エントリー賞は、各協議会で推薦に至らなかった行事のうち、各協議会の審査順位の上位2つまでとなる。今回は、小学校区校こ連から1団体、中学校区青健協から1団体が該当した。</p> <p>穂積小学校区こども会育成連絡協議会「校区百人一首大会（百人一首カルタ競技大会への参加と日々の取り組み）」では、勝ち負けにこだわりすぎず、相手を大切にす気持ちを持って、練習や大会参加の心構えを共有された。小学校区内の3つのこども会が合同で練習し、異学年交流ができ、カルタを通じ友達関係を構築できた。</p>
------------	--

	<p>豊川中学校区青少年健全育成運動協議会「とよかわフェスタ 2024」では、実行委員会に小学生が参加し「ゴミを減らそうキャンペーン」の企画や実施をされた。フェスタのステージでは中学生が司会を務め、小・中・高校生が出店やステージ発表をしたほか、小・中学生が募金活動を行い、ゴミ分別や募金に地域の多くの方が協力された。</p> <p>当アワードについて、市ホームページへの掲載、また重点目標と取組状況の冊子の配布等を通じて関係団体や市民に周知する。</p>
三川部会長	<p>今年度の「ほっとけん！アワード」三島中学校区青少年健全育成運動協議会「夢・笑顔・愛フェス 2024」では、青少年健全育成運動協議会のメンバーが中学校の総合学習に参加し、災害時に中学生ができることを一緒に検討し、中学生には行事の多くの役割を担ってもらうことで、地域の防災意識向上や関係づくりを進められたことが高い評価を得たものである。</p> <p>次年度も引き続き「ほっとけん！アワード」を実施する。</p>
福岡会長	<p>アワードの事例については、ホームページへの掲載や冊子の配布を通じ、地域の青少年健全育成関係者へ周知をお願いする。</p> <p>次に、「ほっとけん！アワードの採点項目の改正」について、部会長から説明を求める。</p>
三川部会長	<p>資料3は、「ほっとけん！アワード」の採点表とその改正案になる。この採点表について、青少年健全育成団体からの意見や、事務局からの提案、専門部会での議論を踏まえ、次年度に向け改正を検討している。詳細は事務局より説明する。</p>
事務局	<p>現在、「ほっとけん！アワード」の審査項目では、重点目標に関することや、青少年との関わり、独自性や総合判断につき、それぞれの審査内容に基づき評価・採点している。</p> <p>この審査内容について、地域の青少年団体からは、青少年と接触する機会が作りにくく、青少年との相談や希望の取り入れが難しいという意見がある。そのため、エントリーに躊躇したり、採点を受けることに抵抗がある。</p> <p>「評価／配点」について、専門部会の中で「やや良くない」という表記について疑問のご意見があり、また、事務局の中では、0点という評価点をつけることへの疑問もあった。</p> <p>これらを鑑み、資料3の採点表の下線部・見え消し部について、次年度に向け改正を検討している。</p> <p>「青少年との相談」の審査内容では、「行事の企画や実施の参考にするため、青少年からフィードバックを得ている」という内容を追加する。</p> <p>「青少年の希望を取り入れたか」では、「青少年が参加しやすいよう工夫している」という内容を追加する。</p>

	<p>「評価／配点」について、「やや良くない」を「工夫が必要」に修正する。各項目の「工夫が必要」という評価につき、0点から2点に修正する。採点の対象項目数は増減しないため、合計点は現行と同じ100点となる。アワードの目的として、エントリーを通じ青少年団体に活動の自己評価や点検を行ってもらいたいということがある。活動の振り返りのプロセスが重要であり、採点基準にとらわれることなく、多くの団体にエントリーいただき、その過程で行事の自己点検をしていただきたい。あわせて、団体間で好事例を共有する機会にしていきたいと考えている。</p>
三川部会長	<p>この案が承認されたら、令和8年度から、新たな基準にもとづき審査を行う。また、青少年健全育成団体から積極的にエントリーいただけるよう周知していきたい。</p>
福岡会長	<p>ただいまの説明について、質問や意見等があれば、発言を求める。</p> <p>< 質疑等なし ></p>
福岡会長	<p>では「ほっとけん！アワードの採点項目の改正」について承認することによってよろしいか。</p> <p>< 異議なし ></p>
正尾委員	<p>専門部会においては、引き続き重点目標に沿った本市青少年育成の取組状況を随時把握し、必要に応じて関係機関と連携し、次なる茨木を担う青少年育成のための施策の研究・検討を願う。</p> <p>次に、「青少年育成の現状報告と課題の共有」を議題とする。茨木警察署正尾委員から、最近の犯罪の発生状況等について情報提供を求める。</p> <p>令和7年の刑法犯認知件数は、大阪府下で約8万4000件であり、前年と比べ約3000件増えた。コロナ発生前の令和元年と同水準になっている。茨木市内では1750件で、前年に比べ約100件減少した。コロナ発生前は約2200件であったので、引き続いて減少傾向を維持したい。茨木市内の犯罪の罪種だが、1番多いのは窃盗でほとんどが自転車盗や万引き等の財産犯である。侵入窃盗より街頭窃盗が多い。市民の皆様には防犯意識を高めるよう努めていただきたい。大阪では特殊詐欺の発生も多い。また、SNS型投資詐欺やロマンス詐欺の被害額が特殊詐欺を上回っており、近年被害が急増し昨年は過去に類を見ない額となった。令和7年は大阪府下の特殊詐欺被害額が130億円、SNS型投資詐欺やロマンス詐欺が204億円と、令和6年の2倍以上の被害額となった。茨木市においても特殊詐欺4億6000万円、SNS型投資詐欺やロマンス詐欺7億7000万円と、被害額が計12億円を超えた。</p>

	<p>令和6年に比べ2倍以上の被害額で、1人当たりの被害額も多額になっている。警戒を強化したい。</p> <p>少年の犯罪傾向について、茨木市では刑法犯罪（14歳以上）が令和7年で44人となった。32人だった令和6年より10人以上増えているが非行傾向が強まったわけではない。1つの傾向として低年齢による非行が色濃く出ており、13歳以下の少年犯罪件数が35件で、年齢別関与数では13歳が一番多い。非行傾向が小学生の頃より始まり、中学生になり発動されやすくなっているため、小学生の段階から非行防止のアプローチが重要だ。中・高生で最も多い犯罪は自転車などの窃盗で、続いて万引きとなっている。また、少年の大麻事犯は年々増加し、昨年は大阪府下で約200人、茨木市で5人を検挙した。SNSの普及により大麻が手に入りやすくなり、以前は反社会的組織とコンタクトを取り入手していたものが、最近は売買仲介に少年たちも係わってきた。違法薬物売買、人間トラブルを起因とする脅迫、恐喝、性被害など、どの犯罪にもSNSがつきまといっている。茨木市では闇バイト問題はなかったが、これもSNSの秘匿性、匿名性の高さによる希薄な人間関係によりトラブルが引き起こされる。このような犯罪に関わると少年たちは自分で何とかしようとする傾向があるが、大人を頼ることも必要である。</p>
福岡会長	他に意見や質問はあるか。無ければ、本日の議事は終了とする。
事務局	【 青少年健全育成研修会について情報提供 】
森岡副会長	【 あいさつ 】
福岡会長	以上をもって令和7年度茨木市青少年問題協議会を閉会する。